

証券コード 5991

NHKニッパツ

日本発条株式会社

第**88**期

株主の皆さまへ

平成19年4月1日～平成20年3月31日



CONTENTS

▶ごあいさつ	1
▶トピックス	3
▶事業概況	
▶懸架ばね事業	5
▶シート事業	6
▶精密部品事業	7
▶産業機器ほか事業	8
▶決算情報	
▶連結情報	
▶連結貸借対照表	9
▶連結損益計算書	10
▶連結キャッシュ・フロー計算書	10
▶連結株主資本変動計算書	10
▶業績の推移(連結)	11
▶単独情報	
▶貸借対照表	12
▶損益計算書	12
▶株主資本変動計算書	12
▶業績の推移(単独)	13
▶株式概況	14
▶役員・株価の推移	14
▶当社・グループ概要・株主メモ	裏表紙

当社グループの第88期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期における日本経済は、個人消費の低迷、法改正の影響による住宅投資の落込み、設備投資の減速などから、国内需要は低調に推移しました。一方輸出は、サブプライムローン問題の影響で景気が減速している米国向けの不振を、新興国や資源国向けが補うことで増加が続きました。

当社グループの主要な得意先であります自動車関連は、国内販売では5,320千台となり前期比5.3%の減少となりました。登録車・軽自動車と共に前年割れで、昨年に続き2年連続の落込みとなりました。完成車輸出は、6,770千台となり前期比10.4%増加しました。アジア・中東向けが好調で全体を押し上げ、6年連続の増加となりました。この結果、国内の自動車生産台数は11,790千台となり前期比2.5%の増加となりました。これに海外現地生産分を加えた日系メーカー全体での世界生産は、約24,000千台となりました。

また、もう一方の主要な得意先であります情報機器関連は、上期にIT関連部材の在庫調整の動きがあり、HDD(ハードディスク駆動装置)も低調な推移となりましたが、下期には調整が終了し回復局面に入りました。

以上のような経営環境のもと、積極的な営業活動の結果から販売数量が増加し、売上高は484,878百万円で前期比13.3%の増収となりました。また収益面では、販売数量増に加え、原価低減・生産性向上・業務効率化に対する徹底した改善努力により、営業利益は30,356百万円で前期比20.9%の増益、経常利益は31,336百万円で前期比15.3%の増益、当期純利益は20,361百万円で前期比27.8%の増益となりました。

なお、当期の期末配当金は、昨年12月にお支払いしました中間配当金と同じく1株につき7円とし、年間では14円といたしました。

平成20年度の日本経済は、原油・原材料価格の上昇、それに続く生活必需品の値上げなどの懸念材料があり、先行きは全く不透明です。この難局を乗り切るためには、慎重かつ積極的な経営判断が必要となります。

当社グループの主要な得意先であります自動車関連では、国内需要が縮小傾向となる中で、日系カーメーカーの海外での現地生産が拡大するとともに、輸出用の国内生産も高水準で推移し、グローバルでは事業が拡大しています。またもう一方の主要な得意先であります情報機器関連でも、HDDは市場の拡大により、引き続き成長が持続すると予想します。しかしながら、今後ますます新興市場も含めたマーケットの中で、品質・コスト・技術面でのメガコンペティションが激しくなり、対応力の強化が必須となります。

また平成20年度は、西暦2010年に向けた新たな中期経営計画「10中計」の初年度にあたります。当社グループでは、マーケットでのポジションを高めることで、各事業のグローバル成長戦略の実現に取り組みます。また、グローバルでの開発力、ものづくり力を強化し、お客様満足度の向上を目指します。さらに、経営の透明性を高めステークホルダーの皆様との信頼関係を構築するため、CSR活動を積極的に推進してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年6月

代表取締役会長

代表取締役社長

佐々木 謙二 天木 武彦



代表取締役社長
天木 武彦

代表取締役会長
佐々木 謙二

「ニッパツ三ツ沢球技場」ネーミングライツを契約

TOPIC.1



記者会見で中田市長とともに新名称のボードを手にする天木社長（左）



今年新設されたオーロラビジョン。上部には「ニッパツ三ツ沢球技場」の文字



オープニングセレモニーで挨拶する天木社長

当社は横浜市との間で、同市内にある三ツ沢公園球技場のネーミングライツ（施設命名権）の基本契約を締結しました。今年3月から5年間、同施設は「ニッパツ三ツ沢球技場」となります。命名に際しては、地域の皆さんに古くから親しまれている「三ツ沢」の名前を残しました。また今回の契約では、施設の無償使用权などもあり、市民に開放するなど有効に活用していく予定です。

昨年9月25日、横浜市役所で契約締結の記者会見を行いました。天木社長は「横浜で育ち、地元根ざした企業として『少しでも地域に貢献できれば』との思いで契約した。当社の知名度を高めるとともに、横浜市と協力してニッパツ三ツ沢球技場が多くの皆さんに利用されることを願っている」とネーミングライツに寄せる思いなどを話しました。

今年3月16日、オープニングセレモニーを行い、天木社長は「この地から当社の主力製品のばねのように、世界へ弾む選手が飛び出していくことを期待している」と挨拶しました。

当社は、ニッパツ三ツ沢球技場を通じて、スポーツの素晴らしさを伝えながら、横浜そして社会の発展に貢献し続けていきます。

「10中計」を公表

TOPIC.2



アナリスト向けの中間決算説明会を初めて東京で開催。120人の参加者に「10中計」を公表

2010年を最終年度とする新3カ年中期経営計画を発表しました。

スローガン

「夢」と「可能性」を求めて

Realizing new visions and possibilities

「10中計」の全社的な重点施策

- ▶ 各事業のグローバル成長戦略の実現
- ▶ 製品・サービスの競争力強化
- ▶ CSR活動の積極的な推進

「10中計」の連結目標

売上高	6,200億円
営業利益額	470億円
営業利益率	7.6%
経常利益	500億円
当期純利益	300億円

新工場など相次いで完成

TOPIC.3

2007年度、国内・海外で新工場や新事務棟、新設備が相次いで完成しました。

- ▶ 2006年から建設を進めていたタイニッパツのシート生産の新工場（バンボー工場）が完成し、2007年2月から納入を開始
- ▶ 2007年2月、化成部品が世界トップクラスの幅広製品を生産できる特殊発泡ポリウレタンのラインを新設
- ▶ 伊那、第11工場が完成。2007年5月から順次稼働開始
- ▶ 2007年10月、広州日弘機電（NSPG）のHDD用メカパーツの新工場が完成
- ▶ 2007年12月、シート生産本部が横浜工場内に油圧式スレッド試験機を導入
- ▶ 2008年1月、DDS駒ヶ根の新事務棟が完成



精密ばねの事業拡大に対応する伊那第11工場



タイニッパツのシート生産の新拠点・バンボー工場

事業概況

懸架ばね事業

Automotive Suspension Spring

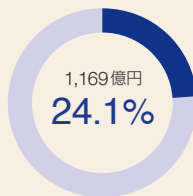
▶主要製品

板ばね
コイルばね
スタビライザ
トーションバー
スタビライザリンク
ガスピリング
スタビリンカーほか

コイルばね

スタビライザ

懸架ばね事業の
売上高・構成比

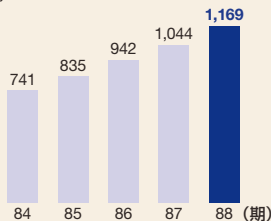


テーパーリーフスプリング

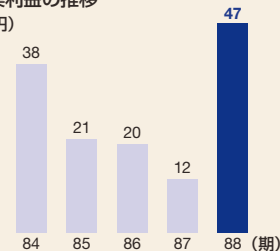
懸架ばね事業の売上高は、116,917百万円で前期比11.9%の増収となりました。営業利益は、4,757百万円で前期比295.0%の増益となりました。自動車生産台数の増加による売上高の拡大と、北米事業の回復により増収増益となりました。

国内では、今後も継続して高水準の自動車生産が予想されることから、横浜工場にコイルばねのラインを増設しました。北米では、売価の改善および生産性向上努力の結果、赤字幅が縮小しました。また生産体制再編のためニューメーサーメタルス社のフランクリン工場にスタビライザのラインを増設しました。アジアでは、現地での自動車生産台数の増加により売上が拡大しました。

売上高の推移
(億円)



営業利益の推移
(億円)





シート事業

Automotive Seating



乗用車用スポーツシート

▶主要製品

自動車用シート
シート用機構部品
内装品ほか



アクティブヘッドレスト機構

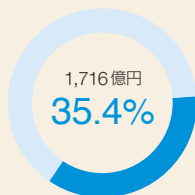


乗員のむち打ち傷害を軽減

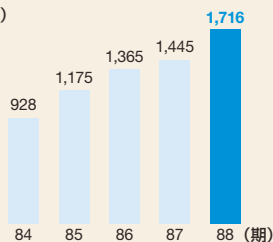
シート事業の売上高は、171,603百万円で前期比18.7%の増収となりました。営業利益は、8,033百万円で前期比32.3%の増益となりました。自動車生産台数の増加と拡販の成果により増収増益となりました。

国内では、持分法適用関連会社であったフォルシア・ニッパツ九州株式会社を、第4四半期から連結子会社としました。北米では、新規車種の生産開始により売上が拡大しました。タイでは、連結子会社のタイ オートモーティブ シーティング&インテリア社の株式を譲渡し連結対象外としましたが、自動車の生産台数増が影響を補いました。また、国内では後方からの追突時に乗員のむち打ちを低減するアクティブヘッドレストの生産を開始しました。

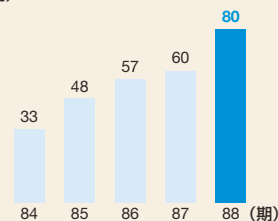
シート事業の
売上高・構成比



売上高の推移
(億円)



営業利益の推移
(億円)





精密部品事業

Precision Products



HDD用サスペンション

▶主要製品

HDD用サスペンション

HDD用機構部品

線ばね

薄板ばね

液晶・半導体検査用
プローブユニット

精密加工品

ろう付製品

セラミック製品

プリント配線版

偽造防止システム

偽造防止シール・タグ

警備端末機器

カードリーダー

設計支援ソフトウェアほか



HDD用機構部品

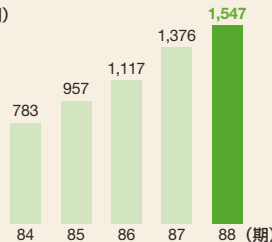


AT用線ばね

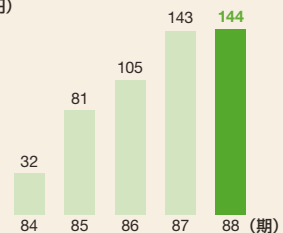
精密部品事業の
売上高・構成比



売上高の推移
(億円)



営業利益の推移
(億円)





産業機器ほか事業

Industry & Others

産業機器ほか事業の売上高は、41,634百万円で前期比0.6%の増収となりました。営業利益は、3,114百万円で前期比10.7%の減益となりました。当事業では、ばね機構品、配管支持装置、駐車装置、ポリウレタン製品、照明器具、ゴルフシャフトなどを手がけ、その事業はさまざまな領域に広がっています。今後も各製品分野における課題解決に努力し、幅広い領域での発展を目指します。

▶主要製品

- ばね機構品
- 配管支持装置
- 駐車装置
- ポリウレタン製品
- 照明器具
- ゴルフシャフトほか



配管支持装置

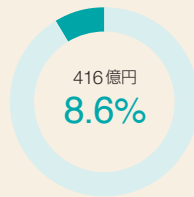


立体駐車装置

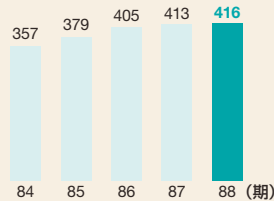


ゴルフシャフト・金属バット等

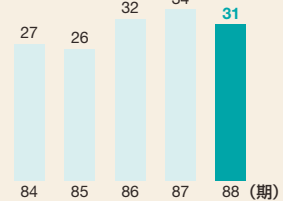
産業機器ほか事業の
売上高・構成比



売上高の推移
(億円)



営業利益の推移
(億円)



決算情報(連結)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第88期 平成20年3月末	第87期 平成19年3月末
[資産の部]	401,069	400,966
流動資産	182,046	179,570
現金及び預金	27,129	40,717
受取手形及び売掛金	98,324	84,945
棚卸資産	38,994	36,915
繰延税金資産	4,482	4,415
その他	13,806	12,982
貸倒引当金	△691	△404
固定資産	219,022	221,395
有形固定資産	140,192	132,913
建物及び構築物	47,548	42,765
機械装置及び運搬具	52,332	44,427
土地	27,419	27,531
建設仮勘定	3,362	10,776
その他	9,529	7,412
無形固定資産	4,368	5,378
のれん	1,751	2,455
その他	2,617	2,922
投資その他の資産	74,461	83,103
投資有価証券	67,725	76,718
長期貸付金	919	1,250
繰延税金資産	1,461	1,375
その他	4,682	4,452
貸倒引当金	△327	△693
資産合計	401,069	400,966

科 目	第88期 平成20年3月末	第87期 平成19年3月末
[負債の部]	241,746	253,262
流動負債	180,664	178,057
支払手形及び買掛金	116,193	106,524
短期借入金	34,713	38,389
その他	29,757	33,143
固定負債	61,082	75,204
長期借入金	29,812	38,513
繰延税金負債	14,814	18,331
退職給付引当金	16,293	18,266
その他	161	92
[純資産の部]	159,322	147,704
株主資本	121,058	104,167
資本金	17,009	17,009
資本剰余金	17,295	17,295
利益剰余金	87,604	70,638
自己株式	△852	△775
評価・換算差額等	28,169	33,442
その他有価証券評価差額金	23,827	30,959
繰延ヘッジ損益	△31	42
為替換算調整勘定	4,372	2,440
少数株主持分	10,094	10,094
負債及び純資産合計	401,069	400,966

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第88期	第87期
	平成19年4月 ～平成20年3月	平成18年4月 ～平成19年3月
売上高	484,878	428,059
売上原価	419,028	367,381
販売費及び一般管理費	35,494	35,562
営業利益	30,356	25,115
営業外収益	5,933	5,276
営業外費用	4,952	3,205
経常利益	31,336	27,185
特別利益	3,420	2,355
特別損失	286	1,849
税引等調整前当期純利益	34,470	27,691
法人税、住民税及び事業税	10,589	11,143
法人税等調整額	1,362	△490
少数株主利益	2,156	1,106
当期純利益	20,361	15,931

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第88期	第87期
	平成19年4月 ～平成20年3月	平成18年4月 ～平成19年3月
営業活動による キャッシュ・フロー	34,229	44,334
投資活動による キャッシュ・フロー	△34,794	△25,576
財務活動による キャッシュ・フロー	△12,962	1,032
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△920	631
現金及び現金同等物の 増減額(減少は△)	△14,447	20,421
現金及び現金同等物期首残高	39,973	18,765
新規連結による現金及び 現金同等物増加額	869	785
現金及び現金同等物の 期末残高	26,394	39,973

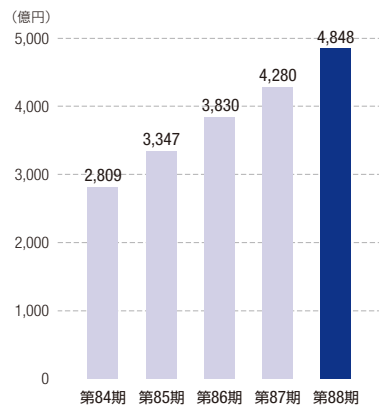
連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

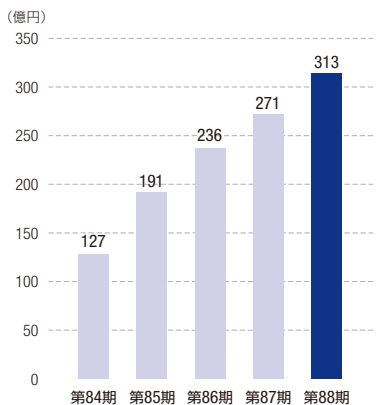
	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月末残高	17,009	17,295	70,638	△775	104,167	30,959	42	2,440	33,442	10,094	147,704
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△3,394		△3,394						△3,394
当期純利益			20,361		20,361						20,361
自己株式の取得				△76	△76						△76
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△7,131	△73	1,932	△5,272	0	△5,272
連結会計年度中の変動額合計	—	—	16,966	△76	16,890	△7,131	△73	1,932	△5,272	0	11,617
平成20年3月末残高	17,009	17,295	87,604	△852	121,058	23,827	△31	4,372	28,169	10,094	159,322

業績の推移 (連結)

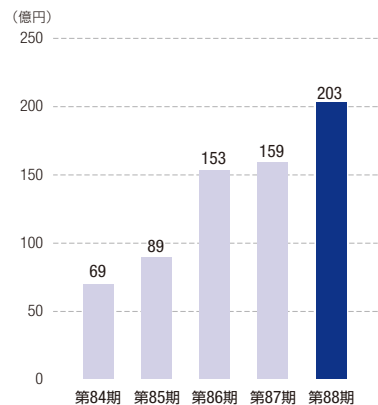
売上高



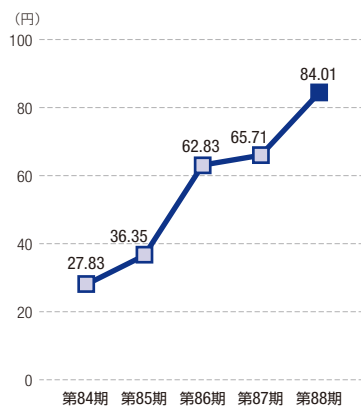
経常利益



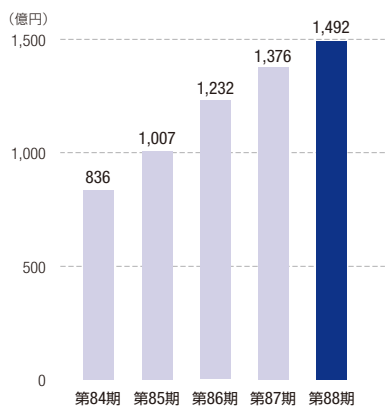
当期純利益



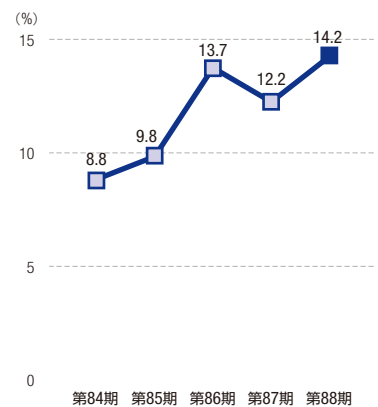
EPS (1株当たり当期純利益)



自己資本



ROE (株主資本利益率)



決算情報(単独)

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第88期 平成20年3月末	第87期 平成19年3月末
[資産の部]	266,209	274,740
流動資産	101,212	102,613
固定資産	164,997	172,127
資産合計	266,209	274,740
[負債の部]	157,429	165,533
流動負債	110,940	108,709
固定負債	46,489	56,823
[純資産の部]	108,779	109,206
株主資本	85,521	79,071
評価・換算差額等	23,258	30,135
負債及び純資産合計	266,209	274,740

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第88期 平成19年4月 ~平成20年3月	第87期 平成18年4月 ~平成19年3月
売上高	266,770	240,778
売上原価	234,105	205,832
販売費及び一般管理費	18,602	18,189
営業利益	14,061	16,756
営業外収益	5,804	4,797
営業外費用	3,289	2,263
経常利益	16,575	19,289
特別利益	1,763	1,657
特別損失	1,989	2,887
税引前当期純利益	16,349	18,060
法人税、住民税及び事業税	5,230	7,350
法人税等調整額	1,199	△182
当期純利益	9,920	10,892

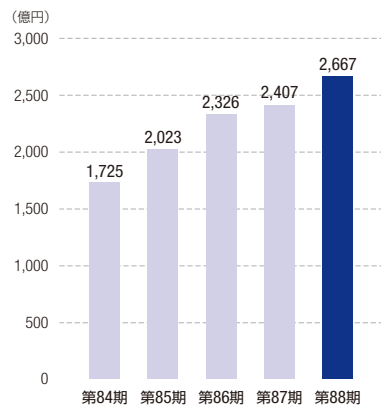
株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

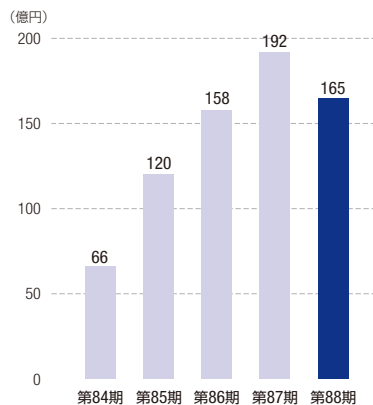
	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年3月末残高	17,009	17,295	45,490	△723	79,071	30,135	109,206
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△3,394		△3,394		△3,394
当期純利益			9,920		9,920		9,920
自己株式の取得				△75	△75		△75
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△6,877	△6,877
事業年度中の変動額合計			6,525	△75	6,450	△6,877	△427
平成20年3月末残高	17,009	17,295	52,015	△799	85,521	23,258	108,779

業績の推移 (単独)

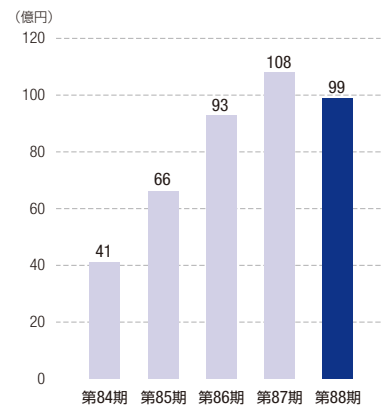
売上高



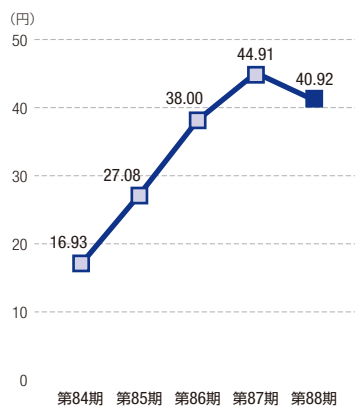
経常利益



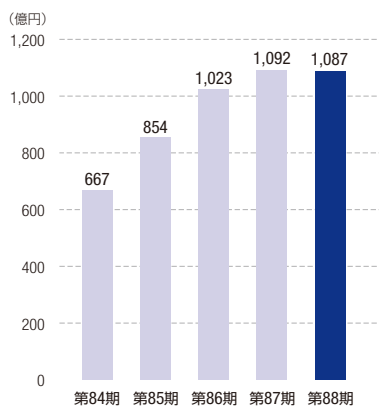
当期純利益



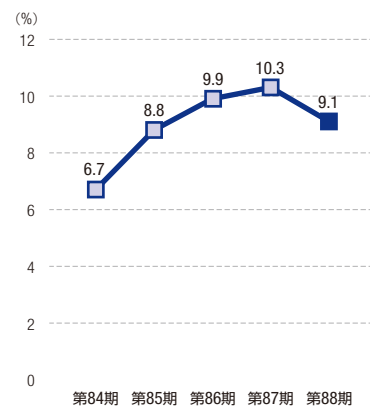
EPS (1株当たり当期純利益)



自己資本



ROE (株主資本利益率)



株式概況

株式の状況

(平成20年3月31日現在)

発行可能株式総数	600,000,000株
発行済株式総数	244,066,144株
株主総数	15,491名

大株主

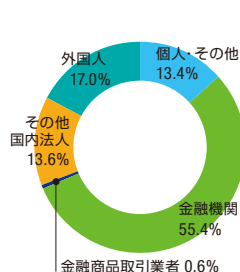
(平成20年3月31日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
三菱UFJ信託銀行 退職給付信託 大同特殊鋼口 共同受託者日本マスタートラスト信託銀行株式会社	30,892	12.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,953	10.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	21,336	8.7
双日株式会社	11,343	4.6
株式会社メタルワン	11,118	4.6
みずほ信託退職給付信託神戸製鋼所口 再信託受託者資産管理サービス信託	9,504	3.9
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	5,753	2.4
株式会社横浜銀行	5,564	2.3
全国共済農業協同組合連合会	5,184	2.1
株式会社みずほコーポレート銀行	5,002	2.1

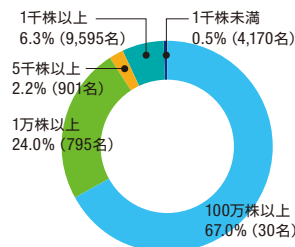
株式の分布状況

(平成20年3月31日現在)

所有者別株数比率



所有数別株数比率



中間配当

平成19年11月13日開催の取締役会の決議に基づき、同年12月5日、1株につき7円の間接配当を実施いたしました。

役員・株価の推移

取締役・監査役

(平成20年6月27日現在)

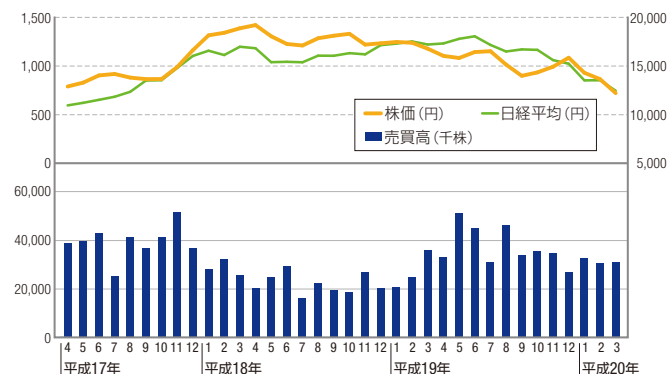
代表取締役会長	佐々木 謙二	常勤監査役	木村 雅彦
代表取締役社長	天木 武彦	常勤監査役	高橋 秀敏
代表取締役副社長	池田 勝一	監査役	嶋尾 正
代表取締役副社長	長澤 國雄	監査役	小森 晋
代表取締役副社長	布施 武		
取締役専務執行役員	山口 努		
取締役専務執行役員	長瀬 悠一		
取締役常務執行役員	玉村 和己		

執行役員(取締役兼務者を除く)

(平成20年6月27日現在)

常務執行役員	山崎 章	執行役員	梅林 彰
常務執行役員	齋藤 哲夫	執行役員	浜野 俊雄
常務執行役員	原 章一	執行役員	平間 恒彦
常務執行役員	安田 滋	執行役員	梅村 太郎
常務執行役員	糸井 孝夫	執行役員	山本 秀夫
常務執行役員	塩田 和男	執行役員	森岡 洋正
執行役員	佐藤 孝徳	執行役員	瓜生 誠二郎
執行役員	鈴木 和巳	執行役員	城所 英明
執行役員	河久保 光茂	執行役員	小西 幸彦
執行役員	畑山 薫	執行役員	片山 仁彦
執行役員	嘉戸 広之	執行役員	前田 正彦

当社株価・売買高の推移



▶ 当社の概要 (平成20年3月31日現在)

創 業	昭和6年—芝浦スプリング製作所
会 社 設 立	昭和14年9月8日
資 本 金	170億956万6,312円
従 業 員 数	4,002名
事 業 所	
[本 社]	横浜
[営業拠点]	東京、横浜、北関東(群馬)、浜松、名古屋、 大阪、広島、福岡
[工 場]	横浜(ばね/シート)、滋賀、群馬、豊田、厚木、伊那、 駒ヶ根(DDS/産機)、伊勢原、野洲

▶ グループの概要 (平成20年3月31日現在)

従 業 員 数	12,910名		
国内関連会社	35社	うち連結子会社	14社
		持分法適用非連結子会社	2社
		持分法適用関連会社	5社
海外関連会社	27社	うち連結子会社	11社
		持分法適用関連会社	3社

日本発条株式会社

〒236-0004 横浜市金沢区福浦三丁目10番地
電話(045)786-7511
<http://www.nhkspg.co.jp/>

▶ 株主メモ

1. 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
2. 定時株主総会 毎年6月
3. 基 準 日
定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日 毎年3月31日および中間配当を行う場合は9月30日
4. 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取扱所 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
各種手続き用紙のご請求
電話 0120-244-479 (24時間自動音声応答)
ホームページ <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>
5. 公 告 方 法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
<http://www.nhkspg.co.jp/>

お知らせ

1,000株未満の株式(単元未満株式)をご所有の場合、合わせて1,000株にするために必要な株式を当社から買増すことができます(買増制度)。また、ご所有の1,000株未満の株式を当社に対して売却することもできます(買取制度)。いずれの手続きも、下記の三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までご連絡ください。なお、保管振替制度をご利用の場合は、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
各種手続き用紙のご請求
電話 0120-244-479 (24時間自動音声応答)
ホームページ <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>